

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-277	17-053	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption, cigarette smoking and incidence of aortic valve stenosis./ 飲酒・喫煙と大動脈弁狭窄発生の関連について		
<b>執筆者</b>		
Larsson SC, Wolk A, Bäck M.		
<b>掲載誌</b>		
J Intern Med. 2017 Oct;282(4):332-339. doi: 10.1111/joim.12630. Epub 2017 Jun 1.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、喫煙、大動脈狭窄、前向き研究、危険因子		28494128
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 飲酒と喫煙は健康を脅かすが、大動脈弁狭窄発生の関連は明確ではない。そのため、飲酒と喫煙が、大動脈弁狭窄の発生率とどのように関連するか、2つの前向きコホートを用いて明らかにする。		
<b>方法：</b> 分析対象は、ベースライン時に心血管疾患のない成人で SMC (Swedish Mammography Cohort：中高年女性の罹患率および死亡率と生活習慣および遺伝的要因の関連に関する1987年に設立された多分野の縦断的プロジェクト) と COSM(Cohort of Swedish Men: 1997年に設立された、スウェーデンに住む男性の食生活やその他の生活習慣に関するアンケート調査)に参加したスウェーデン国民、69,365人とした。大動脈弁狭窄の発生率および死亡率は、スウェーデンの死因登録と照合し、追跡することとした。解析方法は、Coxの比例ハザード分析を用いハザード比 (HR)、95%信頼区間を算出した。		
<b>結果：</b> 平均15.3年の追跡期間で、1,249例 (女性で494人、男性で755人) の大動脈弁狭窄が発生した。軽度飲酒者 (1~6杯/週の飲酒で1杯当たりのアルコールは12g) では大動脈弁狭窄のリスクが有意に低かった (HR: 0.82. 95%CI: 0.68-0.99)。大動脈弁狭窄のリスクは、喫煙強度 (本数と喫煙歴で算出) が高いほど増加した。非喫煙者と比較して、ハザード比(HR)は30packyear以上の現在喫煙者で1.46 (95%CI : 1.16-1.85)であった。10年以上禁煙している過去喫煙者の大動脈弁狭窄の発生は、非喫煙者と同程度のリスクであることが分かった。		
<b>結論：</b> 本研究より、軽度飲酒者では大動脈弁狭窄の発生リスクの低下と関連していた。また、喫煙と大動脈弁狭窄との関連においては、禁煙する事によって大動脈弁狭窄の発生リスクを下げられることが示唆された。		